



今月の先生

岐阜市民病院
澤 祥幸氏

呼吸器科・腫瘍内科部長

昭和59年岐阜大学医学部卒。大阪府立羽曳野病院（現呼吸器アレルギーセンター）を経て岐阜市民病院呼吸器科部長。専門は肺がんの集学的治療。日本初のがん薬物療法専門医。

働くあなたのクリニック



今年はどうなる？

新型インフルエンザ

昨年、世界中で大問題となった新型インフルエンザ、今年は一体どうなるのでしょうか。インフルエンザ流行の季節を迎え、皆さんの準備は万全ですか。

今年も新型インフルエンザは流行するのでしょうか？

今年も流行する可能性があります。過去にも1917年に「スペインかぜ」と呼ばれる新型インフルエンザが流行しましたが、世界中で人口の2%（約500万人）のスペインかぜによる死者のうち、大半は翌年の1918年の再流行で死亡しています。従って、今年も十分な準備と対策が必要になります。ただし、すでに世界中で蔓延しているのが昨年のように流行時に海外渡航を中止したりする必要はないでしょう。

昨年、新型インフルエンザワクチンを接種したのですが今年も必要ですか？

今年も予防接種を受けてください。昨年接種した新型インフルエンザワクチンの効果は大半の人で今年の夏には消えています。ただし、昨年は新型インフルエンザワクチンと季節性インフルエンザワクチンを別々に接種しましたが、今年は新型インフルエンザと季節性インフルエンザの混合ワクチンが準備されていますので、1回の接種で済みます。また今年にはワクチンが3,900万本製造されていますので、約8,000万人の国民に接種可能です。昨年のように不足することはありません。できるだけ流行前に接種するのが理想ですので、早めにかかりつけの医療機関や地元の医師会所属の医院に予約しておくことをお勧めします。

海外では大勢の死者が出ましたが、日本では新型インフルエンザ（H1N1）で死亡した方が少ないのはなぜですか？

日本は、以前からもっと深刻な新型インフルエンザ（H5N1）の流行を想定した対策をとっていました。①空港で水際対策を徹底したこと、②行政やメディアが十分な注意喚起を行い国民が早めに医療機関を受診したこと、③特効薬タミフルが十分備蓄されており、医療機関が外国に比べ献身的に救急医療に対応したこと、④感染時に重症化しやすい人から優先的にワクチン接種を行ったこと、などが功を奏し海外では各国で数千人の死者を出したのに日本では約200人の死者で済んだのです。

新型インフルエンザで今年は大勢の死者が出るのでしょうか？

地域住民・学校・事業所が十分に対策をとれば心配はありません。①普段からうがい、手洗いに心がける、②ワクチンを接種する、③インフルエンザにかかったら早めに医療機関を受診する、などの適切な対応をすれば、少なくとも日本では外国ほどの死者はでないと考えられています。

昨年までは、インフルエンザ特効薬は飲み薬と吸入薬しかありませんでしたが、今年は注射薬も使用可能になったため薬が飲めないほどの重症の方も治療可能になりました。ただし、一番大切なのは、国民が皆でインフルエンザの流行を防ごうという意思と行動です。もし、インフルエンザに感染したら自分の治療も大切ですが、①大切な家族や周囲の人に感染させないようマスクをする、②医療機関には事前に電話をして医療機関の指示に従う、など心がけてください。

